

サーラのCuriosità!! ♥ 南島原

「花火」



花火は、8世紀頃中国で火薬の技術の発達と共に誕生し、次第に普及していったものです。輝かしくて多彩な花火のはかない美しさは、職人の巧みな技術を見せるものとしても洋の東西を問わず多くの人に愛されています。イタリアでも夜空を照らす花火を仰ぐことが大人気です。

イタリア人にとって、冬場の打ち上げ花火はお正月に付き物です。大晦日の夜、午前0時になって年が明けると花火を打ち上げて新年を迎える習慣がイタリア全域にあります。

その由来は、騒音や爆音のような大きな音が邪気を除けるという言い伝えにあるとされています。南イタリアの古い陶器を窓から投げ捨てる風習の元でもあるようです。

澄んだ冬空に上がる花火は遠くからでも鮮やかで鮮明に見えるのですが、イタリアでも日本と同様に花火の季節は

夏です。毎年、お祭りや都市の守護聖人の日、フェッラゴスト祭などあらゆる機会にイタリアの市町村が一番印象的なショーを催そうと競争します。

花火大会も多数あります。花火師からすると、花火はお客様に見せた瞬間になくなる「体験型商品」です。記憶に残すため、花火自体を作るだけでなく、その色や種類、打ち上げの順番、音楽などの構成などのすべてを考慮しないといけないのです。熟練したスキルを見せ付けて、賞をもらえる大会は技術を更に磨き上げる絶好のチャンスです。

実家の近くの遊園地で「光の首都」という花火の大きな国際大会が年に一回開催されるのをベランダから見ました。20分と短い演出があるのに対し、大会は2時間以上続くものもあります。

打ち上げ花火の他、家庭用火火も人気があります。イタリアでは夏の夜に家族で楽しめる花火として、子どもが大好きなスパーク花火(stelline(ステッリーネ)／小さい星という意味)、地面に置く噴水花火(fontane(フォンターネ)／噴水という意味)とまっすぐ打ちあがるロケット花火(razzi(ラズズィ)／ロケットという意味)の三種類が好まれています。

花火は素敵ですが、火薬を使うためそれなりの危険性があるので、慎重に扱わなければなりません。

今年もいよいよ花火の季節が最高潮を迎えます。皆さんも令和初の花火の季節を満喫しましょう。



“空き家をお持ちの人”と“移住を希望する人”との橋渡し

空き家バンク制度

☎ 地域づくり課 ☎73-6631 FAX82-3086 Eメール: teijyu@city.minamishimabara.lg.jp



市では、定住促進のため、空き家の有効活用を図る「空き家バンク制度」を実施しています。空き家売りたい人、貸したい人は「空き家バンク」に登録をお願いします。

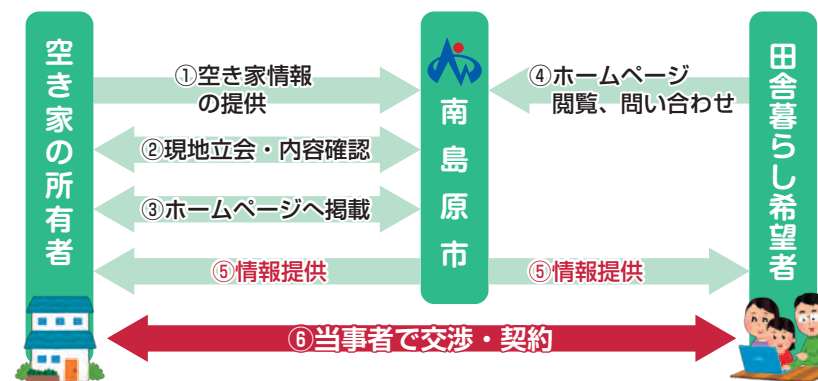
※市は契約交渉などの仲介はできません。

※登録対象物件は、人が住める程度の物件です。

①空き家の所有者 ②申込書に記入し、提出してください。



空き家バンク制度の概要



詳しい内容はホームページでも紹介しています。右記のQRコードを読み取るとご覧になれます。

移住検討者向けサイト

UターンやIターンをご検討されているご家族やお知り合いにお知らせください。

南島原市 空き家情報 検索
南島原GOLDハウス 検索

緊急通報システム「NET119」の利用について

☎ 島原消防本部 指令課 ☎0957-65-5151 FAX 0957-63-6983

島原地域広域市町村圏組合（以下、島原広域）消防本部では聴覚や発話の不自由な人がスマートフォンなどを使用して、火災や救急を通報することができるシステムを提供しています。

利用するには事前登録が必要です。申込書は島原広域のホームページからダウンロードするか、島原広域消防本部指令課までお問合せください。

①聴覚や発話の不自由で音声による通報が困難な人
②申込書に必要事項を記入の上、島原広域消防本部指令課へ申し込んでください。



こい何か知っちゃう？

南島原の考古学



回展糸切り痕を持つ土器

8月・9月の小企画

☎ 8月1日(木)～9月30日(月) ※休館日：毎週火曜日
午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
☎ 深江埋蔵文化財・噴火災害資料館

☎ 一般…200円、高校生…150円、中学生以下…無料 ※団体割引あり
※企画展は入館料のみでご覧いただけます。
☎ 文化財課 ☎73-6705

かいてん いと き 回転糸切り～宮野遺跡(有家町)～

有家町宮野遺跡から、小皿の形をした土器が出土しました。ひっくり返した底の部分には渦のような、ぐるぐるとした不思議な模様があります。これは飾りを目的としたものではなく、土器を作る過程で出来たものです。

現代の陶芸家は焼物を作る時にロクロを使いますが、中世期の日本人たちもロクロを用いて土器を作っていました。ロクロを回しながら手で土器を形作り、最後に糸を回してピツと引くと土器が粘土の塊から切り離されます。この模様はその糸を引っ張る動きで出来たものなのです。

この切り離す技法のことを、考古学では「回転糸切り」といいます。長崎県周辺では12世紀初頭頃から用いられたようです。これ一つで遺物の年代など様々なことが分かる、とても面白い技法です。